

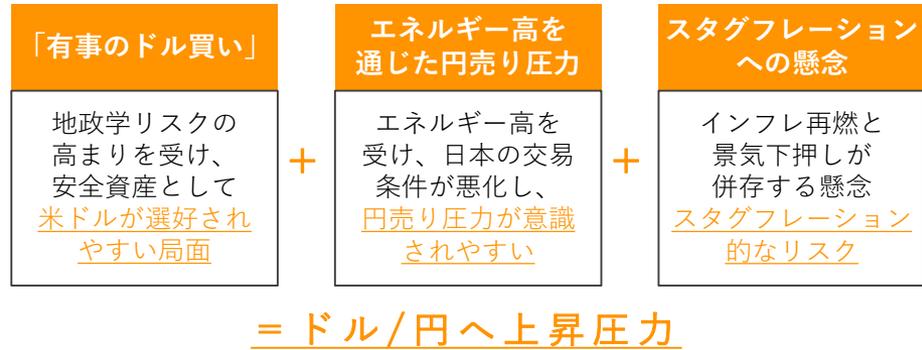
# リそな経済フラッシュ (中東情勢緊迫化とドル円)

- 米国・イスラエルとイランの間で軍事行動の応酬が発生し、市場では長期化への警戒感が徐々に織り込まれつつある。
- 為替市場では、「有事のドル買い」やスタグフレーション的なリスクも意識され、ドル/円に上昇圧力がかかっている。

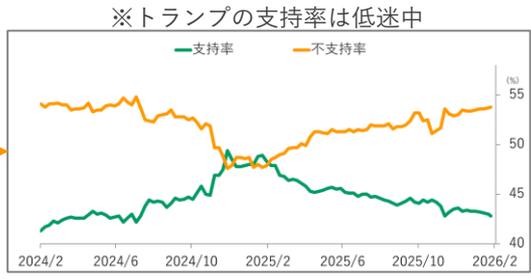
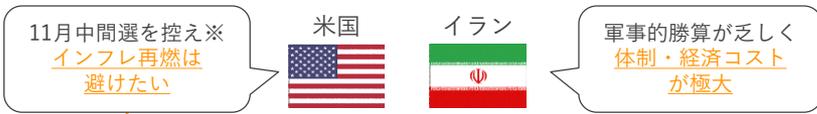
## 1.これまでの対立の経緯

2018年	米国が核合意を離脱・制裁再強化
2019年	中東情勢が急速に緊張
2020年	米国がイラン要人を殺害（全面戦争は回避）
2021-23年	直接衝突を避けた緊張が継続
2024年以降	国家間衝突が徐々に表面化（限定的な攻撃の開始）

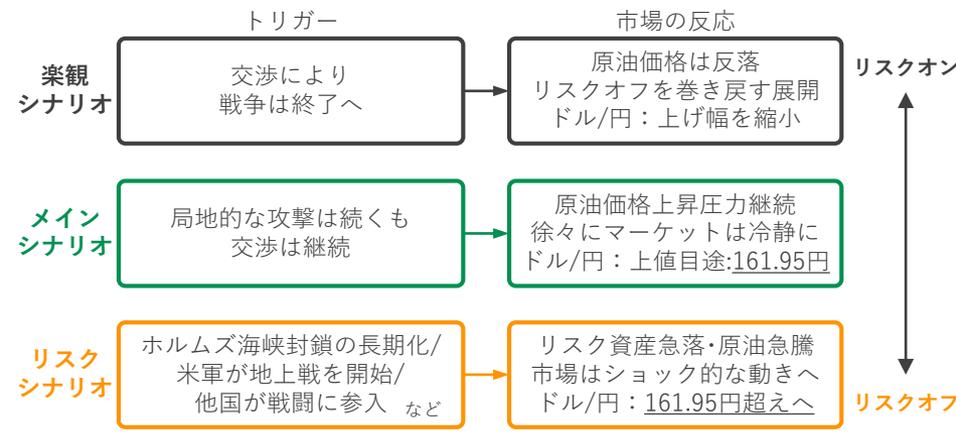
## 3.為替市場の反応



## 2.双方にエスカレーション回避のインセンティブ



## 4.想定されるシナリオ



出所：Bloomberg,各種報道

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

## りそな経済フラッシュ (中東情勢緊迫化とドル円)

2026年 3月 4日  
りそなHD 市場企画部  
担当：苅谷

参考：過去の地政学リスク台頭時のマーケット

### イラク戦争 (2003/3/20～)

	1か月後	3か月後	6か月後	1年後
ドル/円	△ 1%	△ 2%	△ 4%	△ 11%
日経平均株価	△ 2%	+13%	+35%	+42%
WTI原油	+2%	+2%	△8%	+27%
米10年金利	△0.0%	△0.6%	+0.3%	△0.2%

#### 経緯

2003年米国を中心とした連合軍がイラクへ軍事介入をしたことでイラク戦争が開戦し、2011年まで続いた。

#### 市場の値動き

米国が“最後通告”を行っていたこともあり、開戦前からリスク資産は下落。開戦後は、戦況が徐々に連合軍優勢になるにつれリスク資産は反発、金利や原油価格は落ち着く展開となった。

### ウクライナ侵攻 (2022/2/24～)

	1か月後	3か月後	6か月後	1年後
ドル/円	+6%	+11%	+19%	+19%
日経平均株価	+6%	+1%	+8%	+4%
WTI原油	+24%	+20%	+2%	△17%
米10年金利	+0.5%	+0.8%	+1.1%	+2.0%

#### 経緯

2022年ロシアがウクライナのNATO加盟を警戒、外交努力むなしくロシアがウクライナへ侵攻。現在も戦争状態が続く。

#### 市場の値動き

原油価格が急騰、リスク資産は下落するも、西側とロシアの直接的な衝突はなく、主要国経済への影響も限られるとみられ、過度な警戒感は一時的に留まった。

出所：各種報道、Bloomberg

#### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。